

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人  
小羊学園

〒433-8105  
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12  
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707  
E-mail kohitsuji@imix.or.jp  
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人  
印刷所：S R S株式会社  
定 価：一部 30円

2012年9月20日  
第 353号

つながり  
連携ある

こどもの支援のために

理事長 稲松 義人

動物がでてくるテレビ番組は人気があるようです。どんな動物も子どもはそれぞれに愛くるしく、子育てのさまは微笑ましいものです。しかし自然界においては、子どもが成長するには、多くの危険と遭遇する可能性に満ちていることも知られます。世界には飢餓の中に育つ子どもは珍しくないようですし、日本でもかつては成人できずに夭逝する子どもは珍しいことではありませんでした。子どもを産むこと、子どもが育つということはそれだけで

厳肅なことなのだと思います。私の高校時代の一級後輩にMさんという女性がいました。中学も同じでしたが、Mさんが高校に入学し同じ部活(合唱部)に入部してきて出会いました。その後Mさんは父親の仕事の都合で他県に転校しましたが、高校卒業するとまた私と同じ大学に入学し、また同じサークルで活動しました。Mさんには高校時代から付き合っている彼氏があり、大学時代も交際が続いていました。私は高校時代から知っているという事で彼女と仲は良かったと思っ

ていますが、異性だということもあり、私が卒業して関西から静岡(小羊学園)

に就職したあとは、友人の便りなどで消息を知らされるくらいでした。数年後、彼女が二人目の出産でトラブルがあり、赤ちゃんの命と引き換えに亡くなったという連絡を受けました。もう30年近く前のことです。

実は最近、小羊学園のサービスを利用されていたあるご家庭で同じような悲しい出来事が起こりました。亡くなられた若い母親の無念、残されたご主人、子どもたち、ご家族の心情を思うと慰めの言葉にも詰まります。

日常に追われているとほとんど忘れてしまっているのですが、誰にも予想もしないかたちで、人生の大きな危機に直面することがあり得るのです。昔に比べると、医療技術も発達しましたし、子育てのための様々なサービスマも増えてきていますが、かけがえのない母親を失ってしまったり子どもや、大きな試練に直面するご家庭のこと考えると、児童福祉の仕事をしなごら、思うほどの支援がしてあげられないことに心苦しさを感ずります。

そもそも児童福祉は、養育者を失った子どもたちの育ちに寄り添うことが出発点でした。今は、完全に両親がい

ない子どもの数は少ないのかも知れませんが、子どもを養育することができない様々な事情を抱えている家庭は逆に増えているように思います。

小羊学園は、重い障がいがあり、学校教育を受けることができない子ども

たちをお預かりする入所施設から始まりました。今は障がいのある子どもたちもほとんど18歳まで教育を受けることができず、発達に関して相談できる医療機関などありません。

小羊学園でも児童の入所支援のほかに、在宅で生活する子どもたちのためにショートステイや日中一時預かりのサービスマに取り組んできました。放課後支援の事業所は小羊学園だけでも浜松市内に三か所あります。数年前からは就学前の幼児の療育事業にも取り組んでいます。ご家庭の状況をお聞きしながら支援を調整している相談支援事業所もあります。それにも拘わらず、十分に支え切れていないと感じる子どもたちが少なくありません。実際の事例を通して、一人の子どももご家庭への支援のために、学校、行政、医療機関、福祉サービスマなどの対応が、制度的な枠組みや施設の事情によってうまくつな

がっていかないのではないかと感じてきました。子どもたちが健やかに成長できるようにすることは、まずは親の責任でしょう。しかし家庭だけに任せておくのではなく、地域社会も含め、必要なときには社会的な支援をうけながら、子どもたちが成長していきけるようなシステムを作っていきたいと願っています。そのためにならばと思います、先月、学校、行政などの立場を超えた有志があつま

り小さな勉強会をはじめました。

## 夏の思い出

くたくさん遊び、楽しい思い出ができたよ！

今年も暑い夏でした。その暑さに負けず特別支援学校夏休み期間に、子どもたちのためのプログラムを組んで、育ちを支えている4事業所の実践報告をします。



### 夏休みを終えて

ばびるす 森下 理恵

今年も長かった？夏休みを無事終えることができました。ばびるすでは、夏休み期間毎日16名、19名の子どもの達をお預かりしました。ばびるすに通う児童の子ども達は、未就学児、中学3年生まで、県立の特別支援学校や市立の小学校など、17校もの学校から、ばびるすに通って来ています。夏休み期間のみで、70名ほどの子ども達がばびるすを利用しました。

新たにばびるすを利用したい、利用をもっと増やしたい、毎年利用希望が増えているのが現状で、ばびるすでも受け止めきれない部分もあり、保護者の方々にも、御理解とご協力を得ながら、この夏休みも、利用人数の調整をせざるを得ない状況での夏休み支援でした。

暑い毎日でしたが、子ども達は元気いっぱいばびるすに通ってきてくれました。今年は、大きいビニールプールを購入し、例年以上に子ども達は大喜びで、水遊びを楽しんでいたように思

います。

外が暑くても、子ども達はお出かけが大好きです。そんな子どもたちのためにスタッフも毎日、ドライブや公園遊び、散歩に出かけるなど、苦労しながら外遊びのプログラムを行いました。お疲れ気味のスタッフをよそに子どもたちは、元気いっぱい遊んでくれました。その他にも、全員は行けなかったのですが、外食、牛乳工場の見学や新聞社の職場見学などに出かけました。長期休みだけばびるすを利用する子



や夏休みは初めての子、初めて顔を合わせる子ども達もいました。最初はお互い緊張してあまり近づけなかった子どもたちも、だんだん距離が縮まり、子どもたち同士が自然と関わりあいに一緒に楽しそうに遊ぶ姿がみられました。こうした光景は、異年齢で学校も違う子どもの多いばびるすの夏休みならではの、疲れを忘れさせてくれるひと時でした。

### 今年の初体験は

「友愛のさとプール」

ドルチェ 松本 広恵

ドルチェのプールと言えば、6階にある大浴場をプールと称して水遊び。低学年の子供たちは仮プールでも大はしゃぎ。しかし、高校生となると、仮プールはまぎれもなく大浴場。「おもいっきり水遊びさせてあげたい」と思う気持ちもあり、「友愛のさとプールをお借りすることができる」と情報を得たスタッフは、即、申込み。4日間（1回2時間）の利用を確保。このような時のスタッフの決断・行動の速さはびかいち。

中3・高校生の子ども達を対象にして車で友愛のさとへ。洋服の下に水着を着用し、着替え時間短縮。なぜか車の中から水泳帽、ゴーグルまで身に付ける子ども。行き交う車もびっくり！プールを目の前にした子どもたちの行



友愛のさと（浜松市発達医療総合福祉センター）のプール

動は早いこと。「普段もその位、機敏に動いてよ！」と言いたくなる程の勢い。このような子どもたちですから、プールの中は笑顔がいっぱいでした。たくさん遊び、適度な疲労感と充実感を得て子ども・スタッフも大満足。

昨年の電車・バス・外食体験もそうですが、ドルチェでの体験を機に「家庭でも行ってきました」と報告してくださるご家庭が増えてきました。毎年一つの初体験を積み重ねることで、家庭での休日メニューが増え『親子で楽しむ時間を確保して欲しい』と願いつつ、「来年は何を計画しようか？」と早くも悩んでいます。鬼に笑われますね。

### わかなの新しい夏休み

わかな 酒井 哲朗

今年のわかなはスタッフを増員して、多くの方をお預かりすることができるようになりました。とてにぎやかな夏休みとなりました。1日平均15名、18名の子どもたちをお預かりすると、わかなの活動室が少し狭く感じてしまうため、屋外での活動を主に行いました。大きな新しいプールでの水遊びや、浜北森林公園や万葉の森公園での散歩を主とし、外出にもたくさん出かけました。すたみな太郎での昼食外出、友愛のさとでの体育館遊び、うなぎパイの工場見学、フクロイ乳業の工場見学など、例年と比べても様々な体験をみなさんに提供することができました。

すたみな太郎での昼食外出では、事前に保護者の皆様にお子さんの好物に関するご相談をしたり、お店の座席の事前確認など、子どもたちがより楽しく食事ができるようにしっかり準備をしました。いよいよ昼食外出当日、お店の中に入ることも難しいかと思われた子どももすんなりと店内に入ることができました。バイキング形式の食事なので自分で好きな食べ物を山盛りにとって食事を開始しました。最初にテーブルに並べた食事をベロリとたいらげ、おかわりのために席を立つ子もいれば、食べ終わってしまい席を離れて遊ばた



がる子もいました。食べているときは、皆さんモリモリと食べ、焼き肉やお寿司、アイスクリームなどを楽しみながら食べていました。子どもたちの嗜好は様々で、普段の給食の時とは違う一面を見ることができました。

今年の夏休みは天候にも恵まれたこともあり、子どもたちにとっても職員にとっても充実した夏休みを過ごすことができたのではないかと、思います。様々な体験を通し、子どもたちが経験したことを保護者の方と共有することにより、感謝の言葉をもらえたことが職員にとってなよりの励みになりました。この夏の経験をいかし、放課後の支援でも子どもたちの笑顔をたくさん見ることのできる支援を行なっていきます。

### わたぐも

夏期日中一時支援  
わたぐも 高村 慈恵

8月1日から28日の20日間、わたぐもの空床を利用して夏期日中一時支援が行われました。1日に5名から9名の子どもたち、それに学生アルバイトがマンツーマンで関わり、わたぐも職員を含め新たな出会いが生まれました。

活動内容はバスボン作り、リフレクソロジー、リトミック、エアトランポリン等。重症心身障害児と言っても自力移動が出来る子から呼吸器をつけている子までが一つの部屋で過ごすため、全員が一緒に出来る活動を提供するのは困難です。しかし、同じ活動でも提供方法を変えることで楽しめていた様子でした。

特に力を入れたのがリトミックです。音と感触と色、高い音低い音、速いリズム遅いリズムを身体で感じ障がいレベルの違う子でも一緒に楽しむことが出来ました。

また、今年は学生アルバイトが中心となって活動を進める機会を設けました。まず、学生が考えた活動は絵の具を手に塗り手形をとることです。しかし、変形や拘縮がありうまく出来ないことがわかり、重症心身障害の一部を少しでも感じてくれたのではないかと、思います。



初めて利用する子も以前利用した子も、この夏の出会いと経験は良い思い出になったのではないのでしょうか。笑顔あふれる写真が物語っています。



献金と生活用品のご寄付いただく

支援センターわかぎでは、今年も川電氣株式会社様（浜松市東区）から、献金とタオルや石鹸など生活用品をたくさん頂きました。

松川電氣様の社員やご家族が、社会貢献活動の一環として街頭募金や生活用品を集められ、毎年8月に子どもたちと一緒に訪問されます。今回は8月21日に丸井部長様はじめ、社員2名・子ども5名の総勢8名で来訪され、贈呈式が行われました。また、子どもたちに福祉啓発として、福祉施設の現状をお話し、交わりのひと時を過ごしました。

地域の皆さまに支えられ、こうした機会に未来ある子どもたちが障がいのある方の生活を知っていただけることがなにより嬉しく思えました。



平成23年度 共同募金受配報告



① 事業所名	ひまわり（ケアホーム）
② 受配	太陽光発電及び電気工事
③ 総額	2,499,000円
補助額	1,874,000円
自己負担	625,000円

④ 受配の効果

この度、「太陽光発電」の設置に助成頂いたことで、電気料金の軽減が出来、その分の経費を旅行や余暇活動にゆとりを持って使えるようになりました。

⑤ 設置時期 平成24年7月

受配にあたり、ご寄付いただきました県民の皆さま並びに共同募金関係者の皆様に御礼申し上げます。



第4回 小羊学園ふれあい運動会

今年も浜松地区の生活介護施設が集い白熱した運動会が行われます。ご家族の応援大歓迎です！

日時 24年10月12日（金）  
10時～15時15分

ところ 浜北グリーンアリーナ

※ 詳細は、各事業所担当者にお問い合わせください

東北支援プロジェクト継続中

福島県南相馬市の「NPO 法人さぽーとセンターぴあ」への職員派遣を継続中です。

就労継続B型事業所「ビーンズ」に来年3月をひとつの区切りとして応援させて頂いています。現地は放射能問題を抱え、復興にはほど遠い状況です。どうか、引き続き東北のことをお覚え下さい。

派遣レポートが法人・浜北地区HPに連載されていますので、覗いて下さいね！

小羊学園を支える会

2012年度寄付金報告

8月受付分	343,000円（23件）
累計	2,028,051円（137件）

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座	00800-8-107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店	当座預金0107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局（鈴木）  
三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833

編集後記

東北支援プロジェクト第1陣の派遣職員がおよそ3ヶ月の現地支援を終えて帰ってきた。ゆっくりと話す時間は持っていないが、日常業務で会話する中の言葉の端々で「たくましさ」と言うのか「力強さ」と言うべきか、とにかくエネルギー感である。福島の実情を目・耳・肌で感じ、人々と共感した日々が人間的な成長をさせていたのだと感じる。こういった機会を与えてくださった、さぽーとセンターぴあの皆さまに感謝！

そろそろ秋の気配が...と思うのですが、日中は残暑厳しいままで、朝夕は涼しくなりました。どうぞ皆様、お身体ご自愛下さい。